

インダーTMフロアブル

園芸用殺菌剤

① 予防効果と治療効果

予防に加え治療効果に優れ、初期感染時の散布でも病斑の進展を防ぎます。

② 4病害に適用

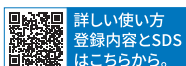
黒とう病、灰色かび病、うどんこ病、褐斑病に優れた効果を発揮します。

③ 果実汚れが少ない

低濃度で散布でき、薬液による作物への汚れがほとんどありません。



「ぶどう」の病害防除には
インダーフロアブル。



詳しい使い方
登録内容とSDS
はこちらから。

■農林水産省登録：第20616号
■有効成分：フェンブコナゾール・・・22.0%
■性状：類白色水和性粘稠懸濁液体

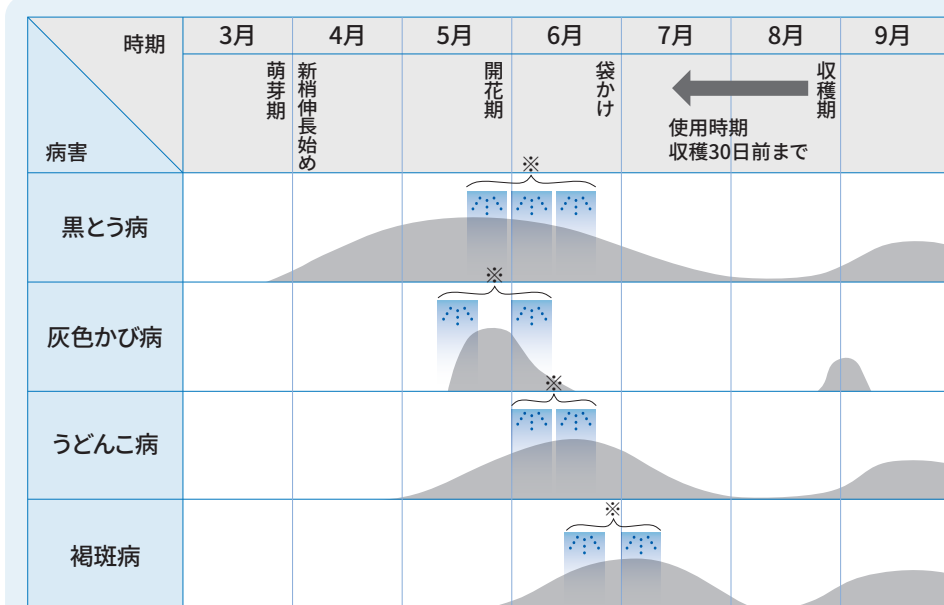
殺菌剤分類 3

園芸用殺菌剤

■適用病害と使用方法(抜粋)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フェンブコナゾールを含む農薬の総使用回数
ぶどう	黒とう病 うどんこ病 灰色かび病 褐斑病	8,000	200～700 ℓ/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内

■インダーフロアブル対象病害の感染時期(模式図)と散布適期例



インダーフロアブル散布適期例

※薬剤耐性菌対策のため、連用は避け、異なる系統の薬剤と輪番使用しましょう。

●黒とう病

菌糸が結果母枝や巻きひげの病斑中で越冬。4～5月に病斑上に形成された分生子が雨滴で分散し、葉、新梢、果実に二次感染する。潜伏期間は若い葉で3～7日。硬化した葉や新梢では発病しない。

●灰色かび病

菌糸や菌核が前年の被害残渣上で越冬。春に形成された分生子が風や降雨で分散し、若葉や花穂の傷口などから感染する。開花前～落花後10日頃に重点的に防除を行う。

●うどんこ病

主として、芽の鱗片内に菌糸で越冬する。4月下旬ごろに芽の基部に分生子を形成し、風で飛散して伝染を繰り返す。温暖(20～25℃)で、やや低めの湿度が好適発生条件である。

●褐斑病

枝や粗皮に付着した分生胞子で越冬し、5月中下旬ころ発病し、円形の黒褐色の斑点を示し、二次感染をくり返す。

■インダーフロアブルの希釈早見表(必要な薬量)

このように薄めればいインダー



希釈水量	300ℓ	500ℓ	600ℓ	1,000ℓ
希釈倍数				
5,000倍	60mℓ	100mℓ	120mℓ	200mℓ
8,000倍	37.5mℓ	62.5mℓ	75mℓ	125mℓ
10,000倍	30mℓ	50mℓ	60mℓ	100mℓ
12,000倍	25mℓ	42mℓ	50mℓ	83mℓ

- 幅広い果樹に使える!
- 優れた予防効果と治療効果!
- 低濃度でよく効く!

⚠ 使用上の注意

- ・貯蔵中に分離することがあるので、使用に際してはよく振ってください。
- ・使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

⚠ 安全使用上の注意

- ・誤飲に注意してください。誤飲の場合には、吐き出させ、安静にして直ちに医師の手当を受けさせてください。
- ・散布の際は、保護メガネ、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- ・密栓し、食品と区別して、直射日光を避け、なるべく低温な場所に保管してください。

●使用前には、ラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は、ほ場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

本資料は2025年7月現在の知見に基づき、作成されています。